

入試年度	2025年度入試	研究科	商学研究科
課程	修士課程	コース	商学コース
入試期	1期	入試方式	全入試区分
研究分野(演習科目名)	経営学(経営管理論)		
出題意図及び解答又は解答例 ※試験問題自体を公開しない場合はその理由			
出題問題	<p>日本政府は「働き方改革」を推進し、多様な働き方を可能にする政策を打ち出しています。その一環として、ジョブ型雇用の導入が注目されています。しかしながら、ジョブ型雇用は日本企業に根付く文化や従来の雇用慣行とは必ずしも一致しないという指摘も多く見られます。このような状況を踏まえ、日本社会においてジョブ型雇用が与える可能性のある影響について、企業の人材戦略への影響、労働者のキャリア形成や生活への影響、さらに働き方改革の目指す方向性との整合性の観点から論じなさい。</p>		
出題意図	<p>本設問は、日本における働き方改革の進展を背景として議論される「ジョブ型雇用」について、受験者がその制度的特徴を理解し、企業の人材戦略および労働者のキャリアや生活に及ぶ影響を、多面的に考察できるかを問うものである。あわせて、政策的背景と日本的雇用慣行との関係を踏まえ、論点を整理しながら自らの見解を論理的に構成する力を確認することを目的とする。</p>		
解答又は解答例	<p>本問題は論述式の筆記試験問題であり、解答は一義的でないため、以下に、採点時の基準や観点等を示している。採点にあたっては、以下の点を総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.理解度 ジョブ型雇用と日本的雇用慣行に関する基本的な概念の理解が示されているか。 2.分析力 企業・労働者・制度の視点から、影響を多面的に検討できているか。 3.論理性 論述が一貫しており、論点整理や構成が適切であるか。 4.表現力 学術的文章として明快かつ適切に記述されているか。 		